

編集 後記

57巻6号をお届けする。この号には健康教育や公衆衛生活動の変化とその影響といった現場の活動に役立つ論文が含まれている。

さて、私は編集委員を務めて2期目になる。2年前に編集後記を書いた時は看護教育の新教育課程(指定規則)が発表され、各教育機関でカリキュラムの変更に取り組んでいた時期であり、そのことに触れたと思う。その後、平成21年7月に保健師助産師看護師法が改変され、保健師および助産師の教育は「半年以上」から、「1年以上」へと延長された。そして、今、その1年以上の年限にふさわしいカリキュラムが検討されている。公衆衛生の中で大きなパワーを持つ保健師であるが、その教育のあり方が今大きな議論となっている。現在そのまま大学の4年間の教育の中に置くのか、大学専攻科とするか、大学院での教育とするかは、現時点では各大学の裁量性に任されている。今後の保健師には現場の問題改善につなげる研究的な視野が必要といわれて久しい。研究能力の向上という点で考えて見れば、日本公衆衛生学会での保健師の発表は盛んである。しかし、日本公衆衛生雑誌には、今号も含めて、公衆衛生の現場に立つ側からの論文は非常に少ない。保健師の研究能力は底上げされてきたと思うが、今後の教育では、論文を作り上げる意欲を持った保健師を育てることが、世界でも優れた公衆衛生活動をしている日本の活動をアピールすることになると思う。ここで「論文を書く意欲」としたのは、技術や思考過程はトレーニングできるが、意欲がなければトレーニングの機会にもアクセスできないからである。大学に勤務する立場として、実践の課題を追求し論文にまとめる意欲のある保健師を育成したいと強く考えている。

(荒木田美香子)

次号予告 (第57巻・第7号)

原著

公費助成肺炎球菌ワクチン接種の費用および接種率に関する調査……………星 淑玲, 他
高齢者向けの「社会活動に関連する過ごし方満足度尺度」の開発と信頼性・妥当性の検討

……………岡本秀明
介護予防事業に参加した地域高齢者における生活空間 (life-space) と点数化評価の妥当性の検討
……………原田和宏, 他
うつ状態と介護保険要支援・要介護認定リスクとの関連

鶴ヶ谷プロジェクト……………大森 (松田) 芳, 他
死亡時の就労状況からみた自殺既遂者の心理社会的類型について

心理学的剖検を用いた検討……………赤澤正人, 他

資料

保健所運営報告, 地域保健・老人保健事業報告からみた保健所数およびその活動の動向

……………大月邦夫
首都圏公立中学校における精神疾患理解教育の

取り組みに関する調査研究……………松田 修

連載

健康の社会的決定要因(4)……………近藤尚己
ヘルスサービスリサーチ(2)……………田宮菜奈子